

## 要配慮者施設職員の水害に関する認識と課題についての考察

九州産業大学 学生会員 佐渡正治 九州産業大学 正会員 山下三平

### 1. はじめに

近年、気候変動による豪雨の強度と頻度が増えている。豪雨による水害は、とくに配慮や支援が必要となる「要配慮者」として深刻な影響を与える。「令和2年7月豪雨」は熊本を中心に九州や中部地方など各地に大きな水害をもたらした。熊本県では南部を流れる一級河川・球磨川が氾濫し、流域に位置する特別養護老人ホーム「千寿園」の入所者14名の命が失われた。

既往研究<sup>1)</sup>によれば、要配慮者の避難に関して、福祉施設と地方公共団体との連携や、施設職員による防災情報の理解度などの課題が指摘されている。今後とも、福祉施設の水害に対する取り組みについて、詳細に調べて課題を明確にしていく必要がある。

そこで本研究は、福岡市城南区に本部をもち2級河川・樋井川の流域に位置する社会福祉法人「葦の家福祉会」の職員の、水害に対する意識を調べ、課題を明らかにすることを目的とする。

### 2. 方法

#### (1) 対象施設

本研究は福岡県福岡市城南区にある、社会福祉法人「葦の家福祉会」の各事業所の職員を対象とする。その事業の概要を表1に示す。

表1 各施設の事業内容<sup>2)</sup>

葦の家福祉会 (障害福祉サービス・福岡市委託事業など)			
葦の家 えーる油山	生活介護	すてっぷ・す まいるホーム	グループホーム
りーど		ヘルパーステーション等	福岡市立特別支援学校放課後等支援事業拠点

#### (2) 実施方法・調査項目

職員に対して水害に対する意識を調べるアンケートを Google Forms<sup>3)</sup> を用いて行った。調査項目は、属性、水害リスク、避難行動・避難情報を含む。回答者は40人であった。実施期間は2022年12月13日(火)から12月20日(火)とした。回答者の事業所と属性を表2と3に示す。

表2 事業所別回答数

葦の家	えーる油山	グループホーム	ほっとほっと &りーど	あしっぶ	放課後等支援	本部事務局
8人	5人	4人	8人	7人	6人	2人

表3 男女比

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	合計
女性	0	3	10	6	2	21
男性	1	10	3	3	2	19

### 3. 結果

#### (1) 水害リスク

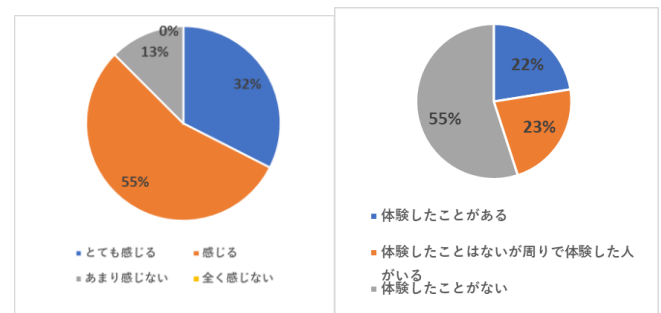


図1 水害リスクへの対策の必要性

図2 水害体験

「スーパー台風や豪雨などによる水害リスクへの対策の必要性(図1)」を「とても感じる/感じる」の回答が87%になる。「水害体験の有無(図2)」では、自分自身で水害の体験をしている人が22%、身近な方が体験している人が23%となる。自分もしくは身近な人が水害体験をもつ割合が5割に迫る。

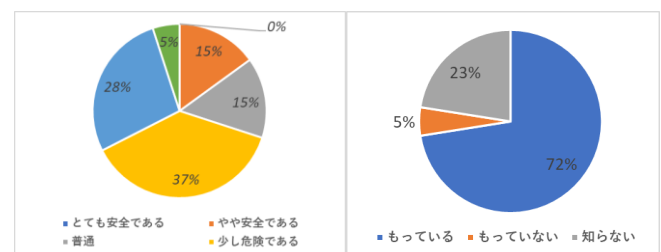


図3 施設の水害に関する危険度

図4 事前避難計画

現在利用している施設の「水害に関する危険度(図3)」は、65%の人が「少し危険/大変危険」と回答している。一方、「安全/やや安全」と回答した人は15%であった。水害リスクを感じている回答者が過半数を大きく上まわることがわかる。水害の「事前避難計画の有無(図4)」では、28%が「もっていない/知らない」と回答した。避難を誘導する職員は事

前避難計画を知っておくことでスムーズな避難行動ができる。認識の課題がうかがえる。

## (2) 避難行動

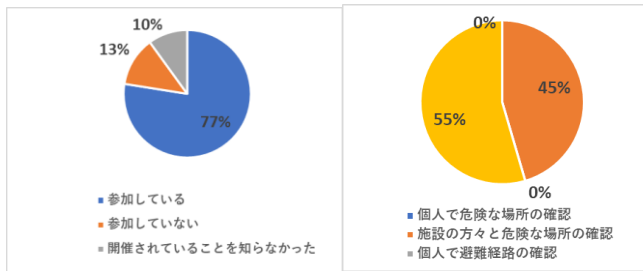


図5 避難訓練の参加

図6 避難訓練の振り返り

「避難訓練」には77%が参加している(図5)。開催されていることを知らなかったのは1割である。

「避難訓練の振り返り(図6)」は、回答したすべての人が個人ではなく、施設で行っていることがわかる。自由記述の回答をみると「避難経路の現地確認及び避難訓練で学んだ内容をレポートにまとめる」「訓練時の不備や追加した方が良い項目の確認」などがある。訓練時の不備や項目の追加などを考えることの重要性が確認される。

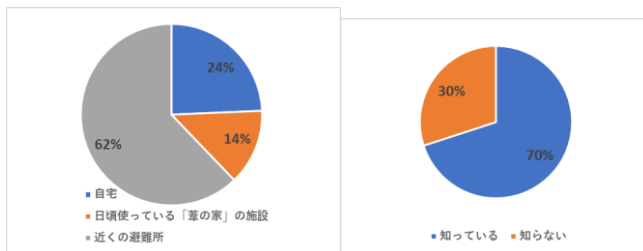


図7 避難場所

図8 洪水ハザードマップ

水害にあってしまったとき「どこに避難するか(図7)」では、近くの避難所が62%で最も多い。近くの避難所は自宅の近く、または葦の家の施設の近くで対応の仕方が異なるはずである。この点は今回の調査では不明なため、追加のヒアリングが必要である。自由記述の回答には「特別支援学校敷地内のため学校内への避難」「自宅に帰れる仲間を保護者送迎、厳しい仲間は2階へ」「避難はしにくいと考えているため事業所の2階」がみられる。垂直避難についての認識が確認される。「洪水ハザードマップ」については(図8)は30%が知らない。危険な場所の確認は避難時に特に重要な要件であるためハザードマップの認知が100%になるように日頃から職員同士で身近な危険場所の共有を行うべきだろう。

## 4. おわりに

本研究では社会福祉法人「葦の家」の職員の水害に対する意識をアンケートにより調査をした。その主な成果について以下に示す。

- 1) 水害の体験は身近な人まで含めると半数弱が体験をもち、水害リスク対策への必要性の認識も3分の2に迫る。
- 2) 避難訓練が開催されていることを知らない人が1割程度、事前避難計画があることを正しく知らない人が3割程度に上り、認識の課題がうかがえる。
- 3) 避難訓練の振り返りは個人ではなく施設として行う傾向がみられる。また、避難訓練時の不備や項目の追加などを考える重要性が確認される。
- 4) 水害の避難場所として、近くの避難所が6割であった。自宅の近く、葦の家の近くかは今回の調査では不明なため、追加のヒアリング調査が必要である。避難場所の自由回答として、事務所の2階が挙げられた。垂直避難についての認識が確認される。
- 5) 洪水ハザードマップを3割が知らない。日頃から職員同士で身近な危険な場所の共有を行うべきである。

今後の課題として、水害にあってしまった場合の避難先が職員によって分かれてしまっているため、避難訓練からどこに逃げるのかをより明確にすることが挙げられる。また施設での避難訓練の振り返りを行う際に、洪水ハザードマップの確認を行う必要がある。

### 参考文献

- 1) 高齢者福祉施設における避難の実効性を高める方策について 令和3年3月 令和2年7月豪雨災害を踏まえた高齢者福祉施設の避難確保に関する検討会(厚生労働省老健局、国土交通省水管理・国土保全局)  
[https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai\\_blog/kor-eisha\\_hinan/pdf/torimatome2.pdf](https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/kor-eisha_hinan/pdf/torimatome2.pdf)
- 2) 葦の家福祉会 HP <http://www.ashi.sakura.ne.jp/>
- 3) Google Forms  
<https://forms.gle/EJPTg43L7HEWLz46>